

# **TSS502**

ターフスプレーヤー

## 取扱説明書



「必読」ご使用前に必ず本書をお読みください。

---

**BARONESS®**  
Quality on Demand

Serial No.11001-

Ver.1.0

# グリーンスプレーヤー 取扱説明書

## MODEL TS502

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本製品を安全に、また、正しくお使いいただくために、ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みになり、取扱方法をよくご理解の上でお使いください。

### ■はじめに

●▲印付きの下記警告マークは、安全上重要な項目を示していますので、必ずお守りください。誤った方法で使用されますと、重大な事故となる場合がありますので、ご注意ください。

- ▲ 危険 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるもの。
- ▲ 警告 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるもの。
- ▲ 注意 その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるもの、または製品の重大な破損をまねく恐れのあるもの。

- この取扱説明書は、本製品の全般的な取扱方法と、使用上の注意事項について記載してあります。  
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しい取り扱いをしていただき、最良の状態で安全に作業をしてください。
- この取扱説明書をお読みになったあとは、いつでも読める状態で必ず保管してください。
- この取扱説明書を紛失、損傷した場合は、直ちにお買い上げの販売店またはもよりの当社営業所までご注文ください。
- この製品を他の人に貸す、あるいは譲渡するときは、この取扱説明書を同時に渡し、必ず使用前によく読むように指導してください。
- 品質上、性能上、あるいは安全上、製品の仕様を予告なしに変更することがあります。  
本書の内容、イラストの一部が、お買い上げの製品と一致しない場合がありますのでご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店またはもよりの当社営業所にご相談ください。

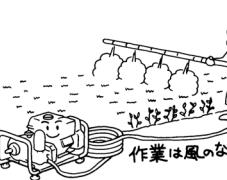
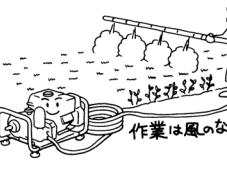
### ■もくじ

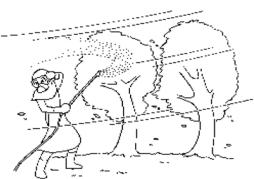
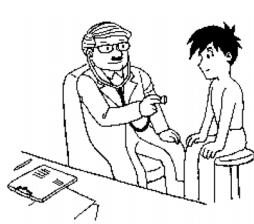
1. 安全に作業をするために.....	2	9. 作業終了.....	26
2. 仕 様.....	9	10. 清掃・保管.....	27
3. 製品の確認.....	10	11. 点検・整備.....	28
4. 使用目的.....	10	12. 故障と対策.....	29
5. 各部のなまえ.....	11	13. アフターサービスについて.....	30
6. 安全ラベルの貼り付け位置.....	16	14. 補修部品の供給年限について.....	30
7. 運転準備.....	21	15. 作業性能資料.....	31
8. 運 転.....	24		

## 1. 安全に作業をするために

ここに掲載されている注意事項を守らないと死亡を含む障害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

### ●農薬の取扱に関する注意事項

<b>警 告</b>	<p>◆次のような、体の調子の悪い人は、薬剤散布作業をしないでください。 (作業の補助もやめてください。)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・肝臓や腎臓に障害のある人</li><li>・特異体質の人</li><li>・薬物に敏感な人</li><li>・病弱、病後の人</li><li>・怪我をしている人</li><li>・生理時の婦人</li><li>・妊娠している婦人</li></ul> <p>→薬剤の影響を受け、体調が悪化することがあります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆次のような人は、薬剤散布作業をしないでください。 (作業補助もやめてください。)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・作業前に酒類を飲んだ人</li><li>・薬物を服用している人</li><li>・15歳未満の子ども</li></ul> <p>→正しい判断、作業操作ができずに事故を起こすことがあります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆薬剤散布作業、作業準備をする人は、皮膚を露出しない、防水性の作業衣を着用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・防水性の帽子、長袖上着、長ズボンを着用する。</li><li>・ゴム手袋、ゴム長靴を着用する。</li><li>・防護メガネ、防除用マスクを着用する。</li></ul> <p>薬液が浸透した時は、すぐに作業衣を交換してください。 →薬剤が皮膚に付着すると、中毒を起こすことがあります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆防除計画をたてて作業をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前もって除草作業などを済ませ、防除作業直後のほ場には入らないようにします。</li></ul> <p>→薬剤により、健康に悪影響を受けることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・同じ人が長時間、連日散布をしてはいけません。</li></ul> <p>→疲れた状態では、正確な作業ができず、健康に悪影響を受けやすくなります。作業中も休憩を取りましょう。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆薬剤散布作業は日中の暑い時や、風の強い時を避けて、朝夕の涼しい時に行ってください。</p> <p>→日差しの強い時に散布作業をおこないますと、散布された薬品が濃縮されて、薬害を生じる恐れがあります。</p> <p>→風が強い時は、薬剤が流され、散布地以外への汚染や、人、家畜、養蜂、蚕、水生動物などに薬害を生じることがあります。</p>	
<b>危 険</b>	<p>◆人通りのある場所、時間（児童の登下校時など）の薬剤散布はやめましょう。</p> <p>→薬剤により、健康に悪影響を及ぼします。</p>	

<b>危 険</b>	<p>◆使用する農薬のラベル、説明書、注意事項をよく読んで、正しく使用してください。 万一に備えて、毒性、応急処置の方法なども確認してください。</p> <p>→注意事項などを守らないと、死亡などの、重大な薬害事故を引き起こす原因となります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆使用する機具が、作業中に故障しないように、作業前に十分に点検・整備をしてください。</p> <p>→作業中に故障すると、薬液タンク内に残った薬剤の処分時に薬害を引き起こす場合があります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆散布作業時は風向きを確かめ、体を風上において、薬剤が体にかかるないようにします。 また、風下から風上方向に作業を進め、散布済みの場所で、作物に付着した薬剤が体に触れないようにします。</p> <p>→薬剤を吸ったり、触れたりすると、健康に悪影響を及ぼします。</p>	
<b>注 意</b>	<p>◆薬剤の空き袋や段ボール箱、プラスチック瓶は、安全な場所で焼却処分をします。 このとき燃焼した煙を吸い込まないでください。 ガラス瓶は安全な場所に廃棄してください。</p> <p>→不完全な処分をすると、薬害を引き起こします。</p>	
<b>注 意</b>	<p>◆使用した機具はよく洗浄してください。洗浄に使った水は、薬害の生じない、非農耕地などに捨てます。決して、川や池などに流したり、付近に捨てたりしないでください。</p> <p>→機具をよく洗浄せずに、次回別種の薬剤を使用すると、機具に残った薬剤が薬害の原因となります。</p> <p>川や池の近くに洗浄水を捨てると、水生動植物などに薬害が生じます。</p>	
<b>危 険</b>	<p>◆散布作業中の飲酒、飲食、喫煙は絶対にしないでください。 休憩時や作業後に食事、喫煙をする場合は、必ず石鹼で手や顔をよく洗い、うがいをしてからにしましょう。</p> <p>→皮膚についた薬剤が体内に入り健康に悪影響を及ぼします。</p> <p>◆弁当、飲食物を農薬、防除機械と同じ容器で運搬、保管してはいけません。</p> <p>→弁当、飲食物が汚染され、薬害事故を引き起こします。</p>	
<b>危 険</b>	<p>◆薬剤が皮膚についたときは、すぐに石鹼水で洗い、衣服に浸透していれば、衣服を交換してください。</p> <p>作業後・作業中に少しでも、めまい、頭痛、吐き気、腹痛などを感じたときは、直ちに、医師の診断を受けましょう。</p> <p>この時、使用農薬名と散布作業の内容（作業時間、作業面積、作業方法など）を医師に報告してください。</p> <p>→早急な手当てを受けなければ、重大な薬害事故となります。</p>	

<b>危 険</b>	<p>◆残った薬剤は、密封、密栓し、食品や、飼料とは区別して、カギのかかる農薬保管箱に保管します。 →保管が不完全ならば、重大な薬害事故を引き起こします。</p> <p>◆使用した機具も、子供や家畜の出入りできない、カギのかかる場所に保管します。 →保管が不完全ならば、機具に付着した薬剤を、家畜がなめたり、子供が触れて、薬害事故を引き起こします。</p>	
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<b>注 意</b>	<p>◆薬剤の中で、火気厳禁の表示のある物（硫黄、乳剤、油剤など）を、火気（焚き火、タバコの火）の近くで使用してはいけません。保管場所も火の気の無い、涼しい場所を選び、タバコの火など、火気を絶対に近づけないでください。 →火災事故の原因となります。</p>	
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<b>警 告</b>	<p>◆作業終了後は入浴して、石鹼で体をよく洗いましょう。 着用していた衣服類は全部取り替え、洗濯します。作業に使った衣服を、翌日そのまま着用してはいけません。 →薬剤の影響を受け、体調が悪化することがあります。</p> <p>◆作業終了後は飲酒、夜更かしをせずに、十分に休養、睡眠を取ってください。 →疲れが残ると、健康に悪影響を受けやすくなります。</p>	
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

## ●防除機械の取り扱いに関する注意事項

<b>警 告</b>	<p>◆作業開始前に、エンジンの電気配線コード、電気部品を点検してください。 絶縁被覆が破れたり、絶縁部品が傷んでいたときは、異常があった部品を交換してからエンジンを始動してください。 →絶縁被覆、絶縁部品が傷んだまま運転すると、感電事故、火災事故の原因となります。</p>	
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<b>危 険</b>	<p>◆物の中・ビニールハウスの中、壁に囲まれた所など、風通しの悪い所ではエンジンを運転してはいけません。 →排気ガスの中の有毒成分（一酸化炭素など）により中毒をおこし、呼吸困難となって意識を失い、死亡する事があります。</p>	
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<b>警 告</b>	<p>◆作業開始前に、エンジンの燃料パイプ、燃料ホースなどを点検してください。 燃料漏れがあったときは、異常がある部品を交換してからエンジンを始動してください。 →燃料が漏れていると、運転中に火災の原因となります。</p> <p>◆運転中のエンジンは高温になります。近くに燃えやすい物を置いてはいけません。 燃料の入った容器、紙、布、ワラなど燃えやすい物は遠ざけてください。エンジンに付着したオイル・燃料、木コリなども、始動前に点検して、きれいに拭き取ります。 →エンジン、排気ガスの熱により火がついて、火災になる事があります。</p>	
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<b>注意</b>	<p>◆運転中のエンジンは高温になっています。 素手などで触れないでください。 また、子供などが近付かないように注意してください。 →高温のエンジン部品（排気管、マフラーなど）に触れると、やけどをすることがあります。</p>	
<b>警告</b>	<p>◆薬液が入ったタンクは必要以上に傾けたり、倒したりしてはいけません。 →薬液がふき出したり、あふれ出す恐れがあります。 ◆噴霧ホース、噴霧ノズルなどの接続部のネジは、確実に締めつけてください。 →締めつけがゆるいと、薬液がふき出す恐れがあります。</p>	
<b>警告</b>	<p>◆ 噴霧ノズルなどの農薬の吐出口を人に向けないでください。 →農薬をあびると、重大な薬害事故を引き起こします。</p>	
<b>危険</b>	<p>◆機械を改造したり、定められた使用目的以外に使ってはいけません。またメーカーが指定した以外の作業アタッチメントは使用できません。 →機械に重大な破損が生じたり、薬害事故を発生する危険があります。</p>	
<b>注意</b>	<p>◆本体の掃除、点検、整備、修理、アタッチメントの脱着などをするときは、必ずエンジンを停止してください。 また、安全のため、プラグキャップを外し、バッテリのマイナス端子を外しておきましょう。 →回転部に巻き込まれ、傷害事故となる恐れがあります。 また、予期しないときにエンジンが始動して、大ケガをする恐れがあります。</p>	
<b>注意</b>	<p>◆1年ごとに定期点検整備を受けてください。特に燃料ホース、電気配線類、ベルトなどは定期的に交換してください。 また、クランクケースオイルなども定期的に交換してください。 →整備の完全でない機械を使い防除作業をしますと、機械の能力を十分に發揮できずに、十分な効果を得られなかったり、傷害事故の原因となることがあります。</p>	
<b>注意</b>	<p>◆点検、整備、修理などで外したカバー類は必ず取り付けてから使用してください。 →回転部分に巻き込まれ傷害事故となる恐れがあります。</p>	
<b>注意</b>	<p>◆本体の掃除、点検、整備、修理、アタッチメントの脱着などをするときは、水平で安定した場所で行ってください。 →本体が倒れたりして、傷害事故となる恐れがあります。 ◆薬剤タンクに農薬を入れるときも、水平で安定した場所で行ってください。 →不安定な場所では薬液タンクが傾き、薬液があふれ出す恐れがあります。</p>	

<b>警 告</b>	<p>◆機械の使用後にシートをかけるときは、エンジンが充分に冷えてからにしてください。 →排気管、マフラーなどの熱によりシートが発火して火災事故の原因となります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆機械を長期間保管する時は、燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜き、バッテリを外してください。 →燃料が変質して、次回使用するときにエンジンが不調になったり、火災事故の原因となります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆機械をトラックなどに乗せて移動するときは、ベルトでしっかりと固定してください。 →荷台から機械が転落して、傷害事故を起こしたり、機械の重大な破損を招く恐れがあります。 ◆機械をトラックなどに積み込むときは、サイドブレーキをしっかりとかけ、変速機をローカップに入れて、車止めをしてください。 →トラックが動いて、転落事故が起きる恐れがあります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆本機の乗車定員は1名です。 作業中や回送中に、運転者以外の人を絶対に載せないでください。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆本機は一般車両の通行しない特定の場所内のみで使用してください。 公道を走行することはできません。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆本機は、地面の傾斜が10°以上の場所は走行できません。 作業前に下見をし、急な傾斜地、軟弱な地盤、スリップしやすい場所などを、よく把握してください。 →スリップや横転事故が起きる恐れがあります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆斜面を降下しながら、ハンドルを切らないでください。 作業前に下見をし、平坦な場所で、車両が旋回できるように、作業手順を考えてください。 →スリップや横転事故が起きる恐れがあります。</p>	
<b>警 告</b>	<p>◆作業中に、異常振動等が生じた場合は、直ちに、エンジン（走行用、噴霧作業用）のキースイッチを切ってください。 →エンジンや機械の破損等により、飛散物や高温のオイル・ガス等で、身体を傷つける恐れがあります。</p>	

<b>▲ 注意</b>	<p>◆本機から降りる場合は、飛び降りないでください。 →捻挫やけがをする恐れがあります。</p>
-------------	-------------------------------------------------------

### ●燃料を取り扱うときの注意事項

<b>▲ 警告</b>	<p>◆燃料を取り扱うときは、火気（タバコの火、ストーブ、焚き火など）、電気火花（静電気、バッテリ、スイッチなどのショートによる火花、溶接火花など）を近づけないでください。 エンジンへの燃料補給時のほかに、2サイクル用混合ガソリンの調合時、小型タンクに燃料を移し替える時なども、充分注意してください。 →燃料に引火して、火災事故の原因となります。</p>	
<b>▲ 警告</b>	<p>◆エンジンの運転中や、停止直後の、エンジンが熱いあいだには、燃料の給油、潤滑油を注油することはやめてください。 エンジンが冷えてから、給油、注油をしてください。 →高温のエンジン部品に油がかかると、引火して、火災事故の原因となります。</p>	
<b>▲ 警告</b>	<p>◆ 燃料の補給をした後は、燃料タンクのフタを確実にしめて、こぼれた燃料は、完全に拭き取ってください。 →運転中に、こぼれた燃料に引火して、火災事故の原因となります。</p>	

### ●バッテリーを取り扱うときの注意事項

<b>▲ 警告</b>	<p>◆バッテリーは水素ガスを発生しますので、火の気（ライター、タバコの火等）、電気火花（静電気、電気のショートによる火花、溶接火花等）を近づけないでください。 →水素ガスに引火して爆発することがあります。</p>	
<b>▲ 危険</b>	<p>◆バッテリー液には希硫酸が使われています。危険ですからバッテリー液が衣服に付着しないように取扱に注意してください。 もし、バッテリー液が付着した時には、すぐに大量の水で洗い流し、目に入ったときは清水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。 →やけどや失明の原因となります。</p>	

<b>危 険</b>	<p>◆バッテリーを火の中に投げ入れたり、分解することは大変危険ですから絶対に止めてください。</p> <p>→バッテリーのケースが破裂して、バッテリー液が飛び散り、やけどや失明の原因となります。</p>	
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

<b>危 険</b>	<p>◆ショートによる事故を避けるため、バッテリーを取り外す場合は、マイナス (-) の接続を先に外します。取り付ける場合は、逆に、プラス (+) から取り付けます。</p> <p>→やけどの原因となったり、火災の原因となります。また、大電流により、バッテリーが過熱してバッテリーケースが破裂し、バッテリー液が飛び散り、やけどや失明の原因となります。</p>
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<b>危 険</b>	<p>◆バッテリーを交換する場合は、必ず、取扱説明書で指定の容量のバッテリーに交換してください。</p> <p>→指定容量以外のバッテリーを使用しますと、過熱して、バッテリーケースが破裂し、バッテリー液が飛散し、やけどや失明の原因となります。また、水素ガスの発生量が増し、火災の原因となります。</p>
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●一般的な注意事項

<b>警 告</b>	<p>◆使用する器具が、作業中に故障しないように、作業前に充分に点検整備をしてください。 ネジ類のゆるみ、外れはないか、オイルの漏れがないか、点検確認をしてください。</p> <p>→点検整備が充分におこなわれないと、重大な傷害事故の原因となったり、機械の破損が生じる場合があります。</p>
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

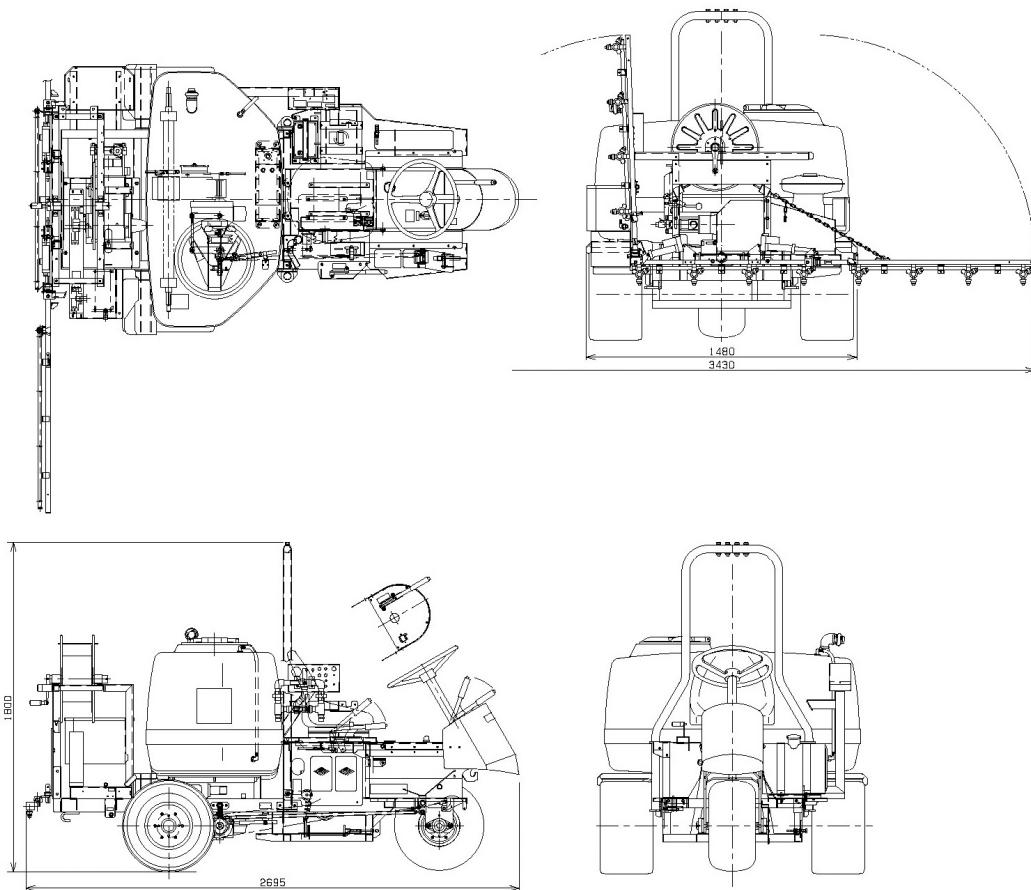
<b>注 意</b>	<p>◆この取扱説明書で示す重要な項目は、起こりうる全ての状況や状態を表しているものではありません。安全性には充分配慮しておりますが、取り扱う方や保守をする方も、充分な注意をはらってください。</p>
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2. 仕様

型 式		TS502
全長×全幅×全高 (mm)		2695×1480×1800
重 量 (kg)		615
エンジン ( 走行用 )	型 式	バンガード 18HP
	最大出力 (kW/min <sup>-1</sup> )	13.5/3600
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量 (L)	17.8
最高走行速度 (km/h)		15
タイヤサイズ (前輪)		19×10.5×8
タイヤサイズ (後輪)		20×12×10
油圧オイル		ISO 32
動 力 噴霧機	型 式	CT85
	吸水量 (L/min)	85
	最高圧力 (MPa)	1.5
エンジン ( 作業用 )	型 式	スバル EH25-2BS
	最大出力 (kW/min <sup>-1</sup> )	4.7/1800
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量 (L)	6.0
ヤクザイタンク容量 (L)		500
作 業 幅 (mm)		3600
ブームアーム開閉方式		電動式
ブームノズル		8010×12, 8008×12
噴霧ホース (mm×m)		10×30

単位の記号は国際単位(SI)をあらわしています。

※エンジン及び動力噴霧機(以下ドウフン)単体の詳細仕様については、各取扱説明書を御覧ください。



### 3. 製品の確認

納品された時に下記の点をご確認ください。

- ・機種はご注文通りのものか。
- ・輸送の途中で損傷した箇所がないか。
- ・ネジやボルトの脱落、ゆるみ等がないか。
- ・付属品が全部そろっているかどうか。

万一不具合な点がございましたら、お買い求めの販売店へご連絡ください。

#### ○標準付属品

- ・セツメイショ（本機）
- ・セツメイショ（走行用エンジン）
- ・セツメイショ（作業用エンジン）
- ・セツメイショ（ドウフン）
- ・セツメイショ（ソクドケイ）
- ・ドライバー
- ・プラグレンチ

### 4. 使用目的

本製品は、ゴルフ場もしくは、それに類する芝地にて高圧水を利用し、農薬の液剤散布や散水の様な防除作業のためにご使用ください。

※農薬…殺虫・殺菌・除草用の薬品

<b>危 険</b>	<p>◆本機を改造したり、定められた使用目的以外に使わないでください。 また、メーカー指定以外の作業アタッチメントは使用できません。 →重大な傷害事故がおきたり、本機に破損が生じることになります。</p>
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5. 各部のなまえ

**エンジン**：車体の油圧ミッションに動力を供給します。

(走行用)

**キースイッチ**：走行用エンジンの始動・運転・停止を行うスイッチです。

(走行用エンジン)

**チョークノブ**：走行用エンジンの始動に使用します。

**スロットルレバー**：走行用エンジンの回転数を調節します。

(走行用エンジン)

**アワーメータ**：キースイッチを運転状態にすると作動します。表示値は0. 1時間単位で  
(走行用エンジン) 積算されます。

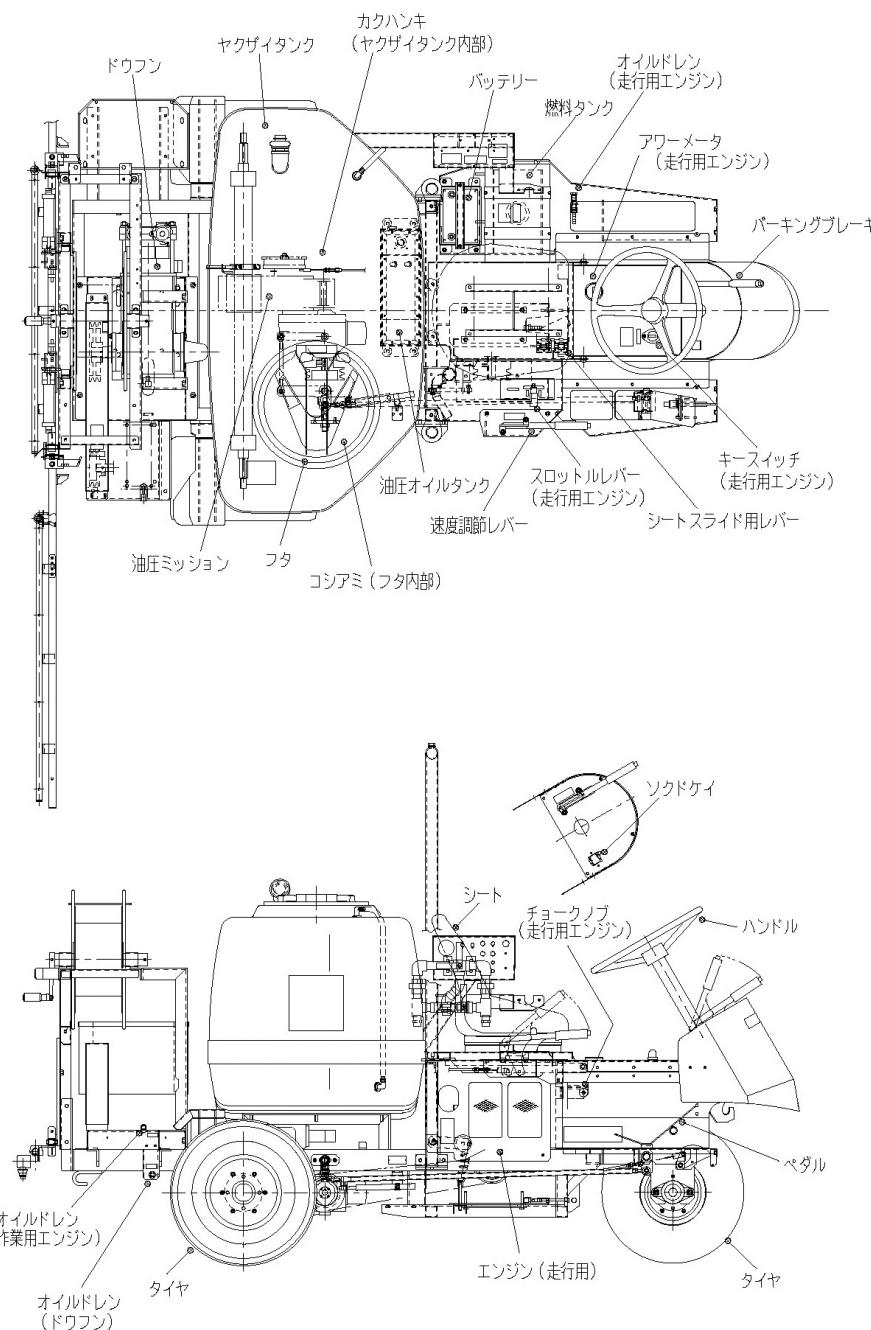
**ハンドル**：走行時、前輪を操舵します。

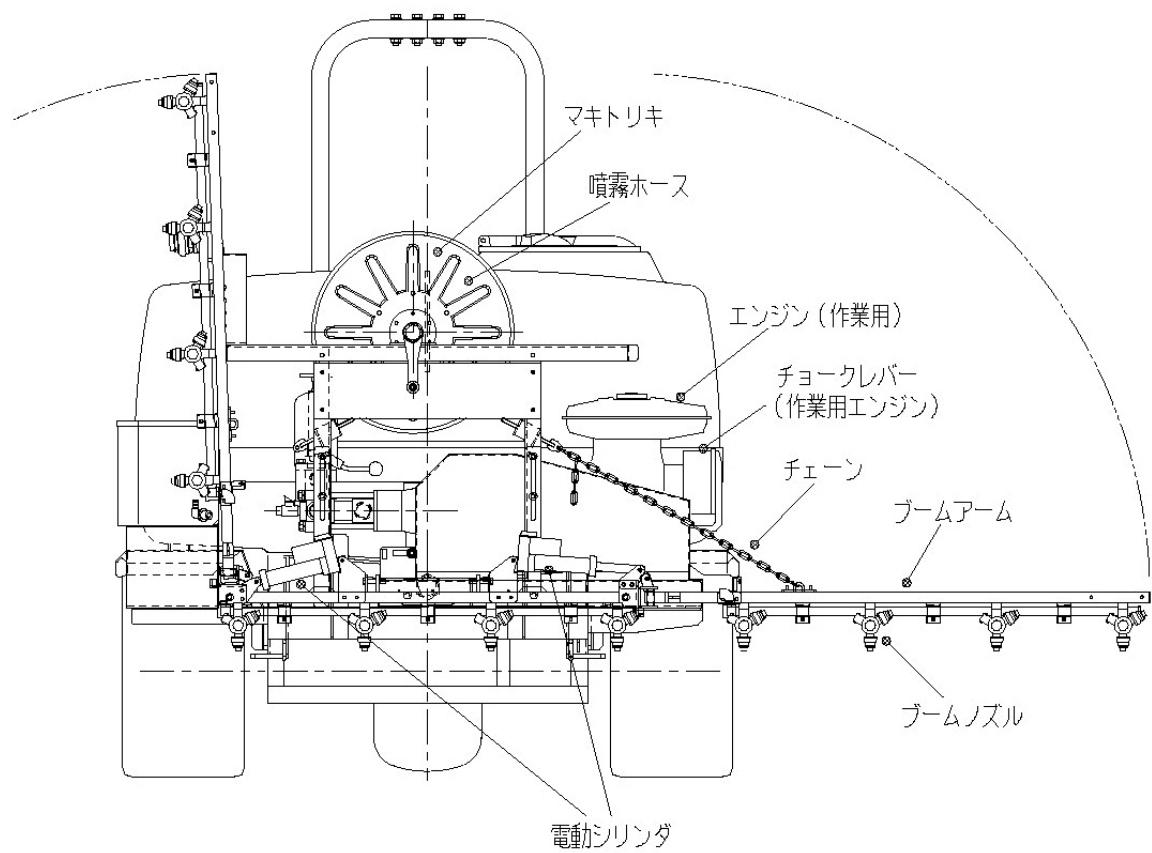
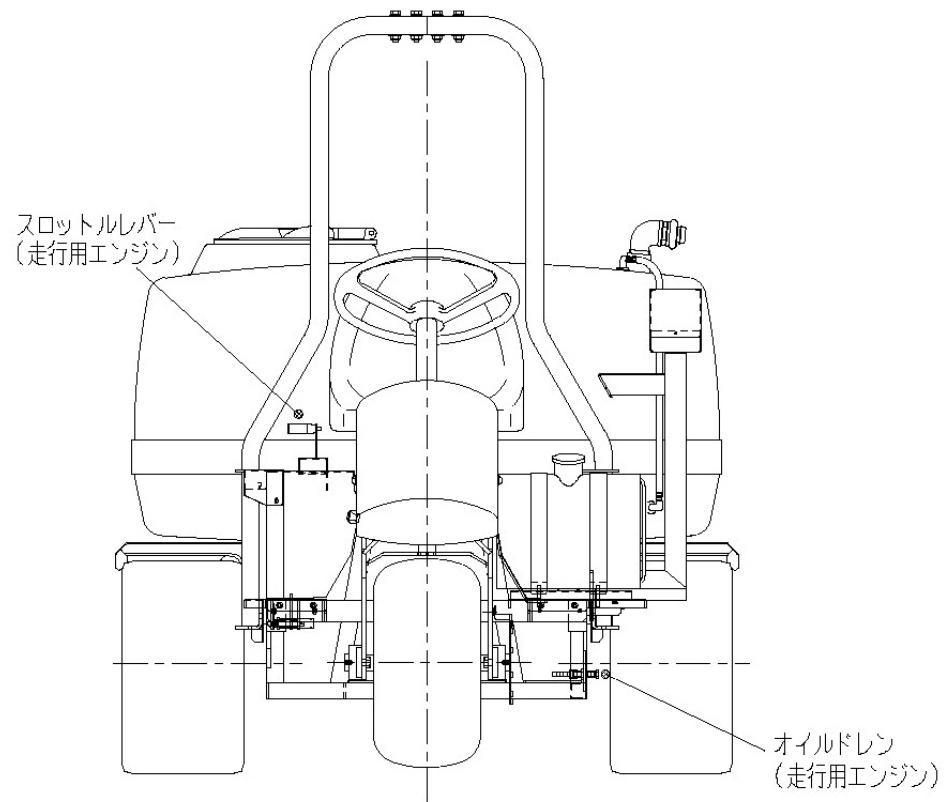
**ペダル**：車体の走行速度、前後進を踏み込み量で操作します。

**パーキングブレーキ**：作業機を駐車させる場合に使用します。

**速度調節レバー**：作業時の車体走行速度を一定にする場合に使用します。

**ソクドケイ**：車体の走行速度を表示します。





**キー スイッチ**：作業用エンジンの始動・運転・停止を行うスイッチです。

(作業用エンジン)

**スイッチ（左ブーム）**：左のブームアームの開閉を行うスイッチです。

**スイッチ（右ブーム）**：右のブームアームの開閉を行うスイッチです。

ブームスイッチはいずれもオートリターン式で、スイッチから手を離せばブームアームは止まります。

**スイッチ（攪拌用）**：ヤクザイタンク内カクハンキの作動・停止を行うスイッチです。

**警告灯（低水位）**：ヤクザイタンク内の水(薬液)が規定量以下になると、点灯します。

**警告灯（攪拌作動）**：ヤクザイタンク内のカクハンキが作動している場合に点灯します。

**アワーメータ**：キースイッチを運転状態にすると作動します。表示値は0. 1時間単位で(作業用エンジン) 積算されます。

**ヒューズケース**：3個のヒューズケースがあり、内部にガラス管ヒューズが入っています。左側に2個上下に並んでいるのがブーム開閉用のヒューズ(各5A)で右側の1個がカクハンキ用のヒューズ(15A)です。

**スロットルレバー**：作業用エンジンの回転数を調節します。エンジンのスロットルレバーを、(作業用エンジン) これで遠隔操作しています。

**元コック**：ブームノズルからの噴霧を全て一斉に開始・停止します。

ハンドル(オレンジ)が上に向いているときはブームノズルからの噴霧は停止し、ハンドルを本機後方に向けると噴霧を開始します。

**アツリヨクケイ**：ブームノズルからの噴霧圧を表示します。

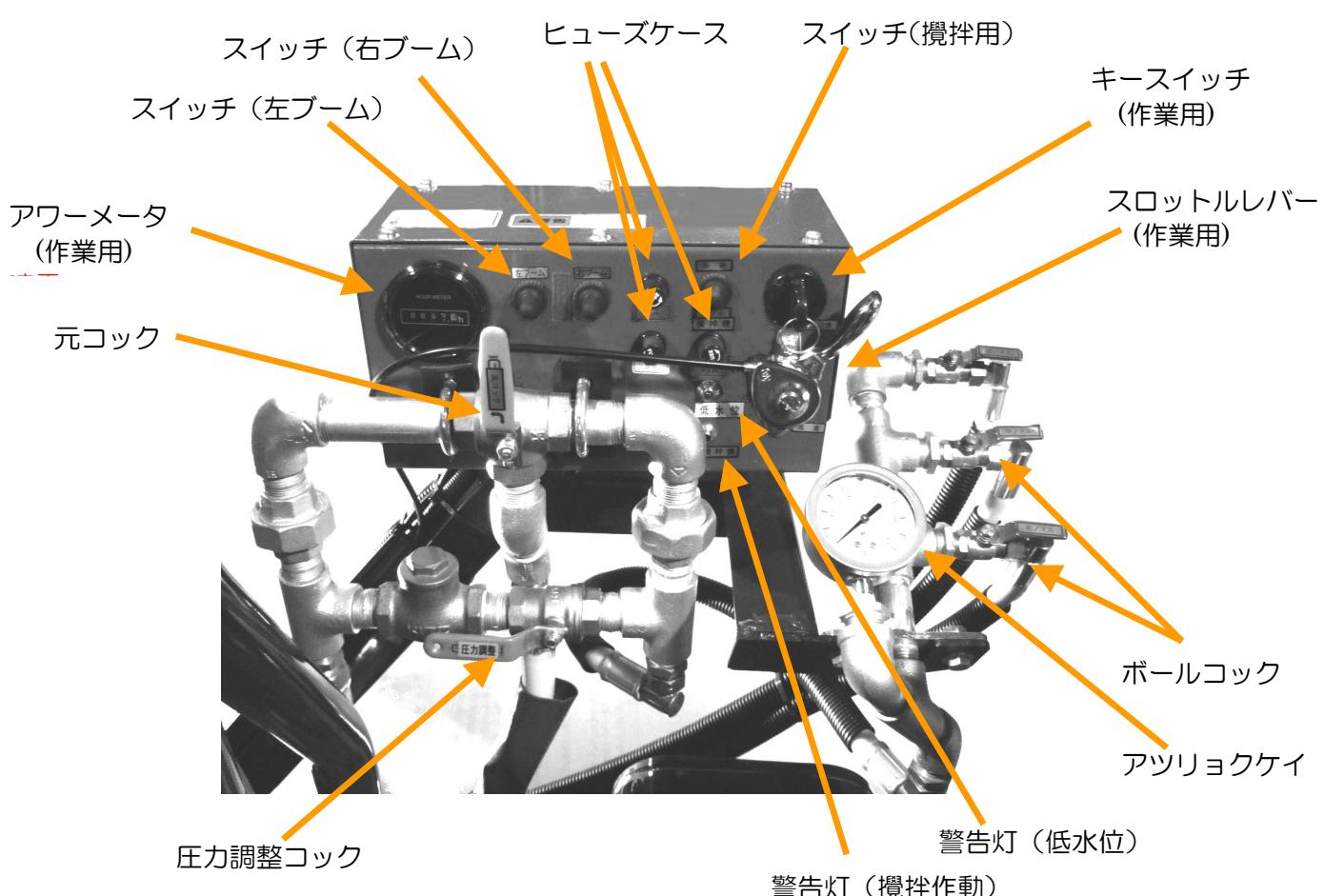
**圧力調整コック**：アツリヨクケイを見ながら、ブームノズルからの噴霧圧力を調整します。

ハンドル(緑)が真上に向いているときは最高圧で噴霧します。

ハンドル(緑)が後方に倒れるほど噴霧圧が下がります。

**ボールコック**：ブームノズルからの噴霧を左右中央個別に開始・停止します。

アツリヨクケイに向かって手前が右ブーム用、中央が中央ブーム用、奥が左ブーム用です。



**エンジン**：ドウフンに動力を供給します。

（作業用）

**ドウフン**：水（薬液）を高圧にし、ノズル部に送り出します。

**チョウアツベン**：水（薬液）の送水圧力を調節します。

上部のハンドルを時計方向に締め込むと送水圧力は上昇し、反時計方向にゆるめると送水圧力は下降します。

**アツリヨクケイ**：チョウアツベンにより設定された圧力を表示します。

**コック（排水用）**：ヤクザイタンクから出た水（薬液）の流れを切り換えるためのバルブです。

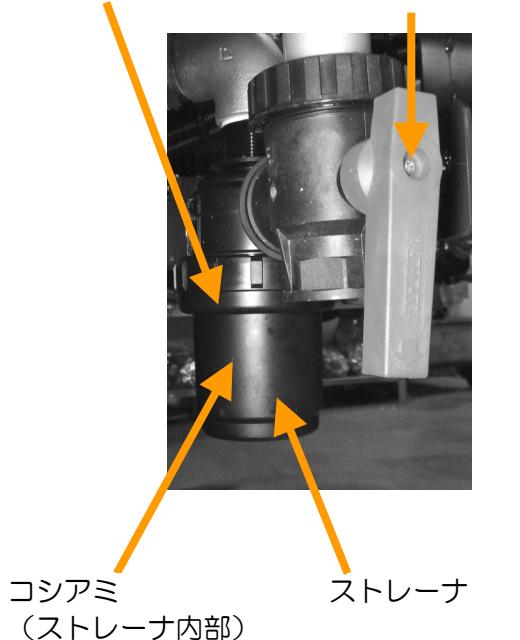
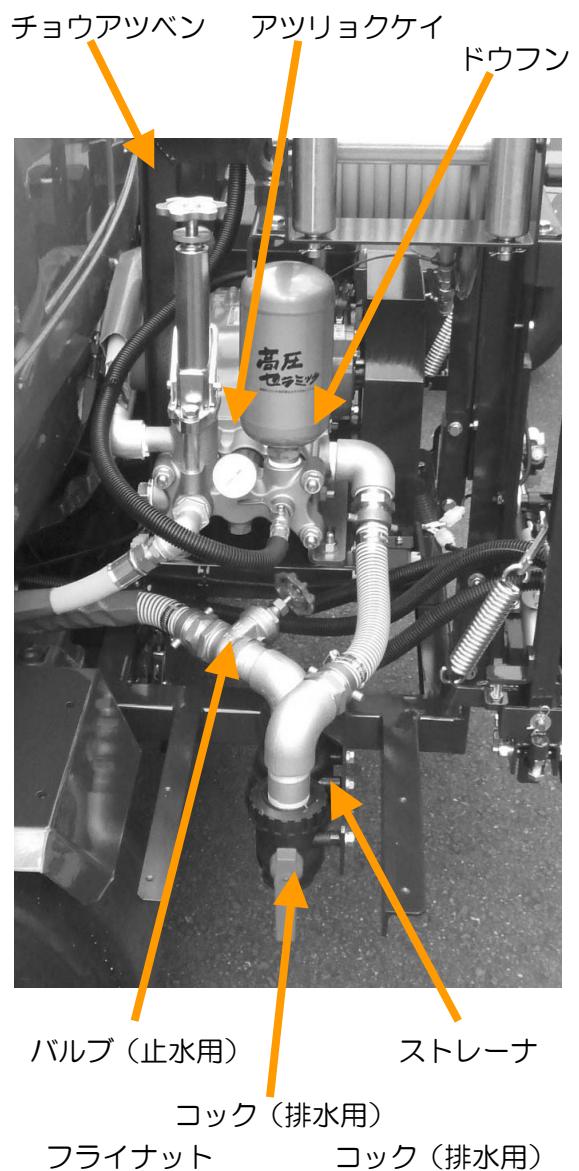
・赤いハンドルを本機下方に回すとヤクザイタンク及びドウフン内の水は全て排出されます。

・赤いハンドルを本機上方に回すとヤクザイタンク内の水（薬液）はドウフンへ流れます。通常作業時は上向きで使用してください。

**ストレーナ**：ドウフン部に大きなゴミ等を吸わせないためのコシアミが内部に組み込まれています。

**フライナット**：ストレーナ内部のコシアミを掃除する時、これをゆるめてコシアミを取り出します。

**バルブ（止水用）**：ヤクザイタンク内部に水（薬液）が残っている時にストレーナのコシアミを清掃するためのバルブです。通常は開いたままにしておきます。



**ヤクザイタンク**：水(薬液)を入れるタンクです。内部にカクハンキと低水位センサが設けてあります。タンク内の水(薬液)の水位が規定量以下になると低水位センサが作動し、警告灯（低水位）が点灯します。なお、規定量付近では水面の波うちなどにより点灯・消灯を繰り返す場合があります。

**カクハンキ**：ヤクザイタンク内部に設けてあります。ヤクザイタンク内の水(薬液)を攪拌します。

**コシアミ**：ヤクザイタンクのフタを開くと内部に入っています。異物をドウフンに吸わせないために設けていますので、通常は付けたままにしておいてください。

**ブームアーム**：ブームノズルを取り付けてあるアームです。左右のブームアームは、スイッチ（左ブーム・右ブーム）の操作により個別に開閉できます。

**チエーン**：作業時に、ブームアームが水平以下に降下することのないように規制するチエーンです。

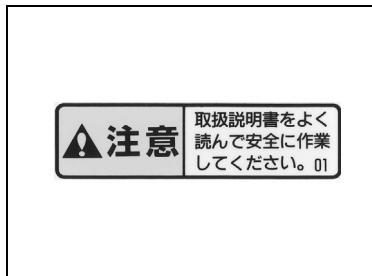
**ブームノズル**：加圧された水(薬液)を噴霧します。回転させることにより、3種類のノズルが用途に応じて選択できます。工場出荷時には緑に8010が、赤に8008がそれぞれ装着してあり、白にはノズルチップが装着してありません。本書巻末の作業性能資料に記載の各種ティージェットノズルチップが装着できます。

## 6. 安全ラベルの貼り付け位置

本製品を安全にお使いいただくために、安全に関するラベルの貼り付け位置を示した図です。

<b>▲警告</b>	ラベルは常に読めるように保ち、破損や紛失した場合は新しいラベルを貼ってください。又、ラベルを貼ってある部品を交換したときにも必ず取り外した部品と同じ場所にラベルを貼ってください。ラベルの購入は、本製品をお買い求めの販売店またはもよりの当社営業所にお申し付けください。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

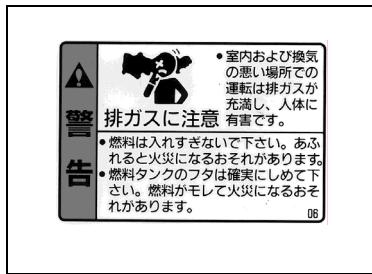
803333001



取扱説明書を読まずに作業しますと、死亡又は重傷を負う危険性がありますので、必ず作業前に読んで十分に内容をご理解の上、ご使用ください。

また、取扱説明書をお読みになった後は本機に近接して保管してください。紛失又は損傷された場合は、速やかにお買い求めの販売店またはもよりの当社営業所にご注文ください。

803333006



室内や換気の悪い場所での運転は、排気ガスが充満し人体に有害ですので、やめてください。

燃料の入れすぎ、燃料タンクのフタの閉め忘れは火災につながる恐れがありますので、注意してください。

803333007



修理点検及び給油する場合は、エンジンの回転を停止してください。エンジンを停止せずに作業を行いますと死亡又は重傷を負う危険性があります。マフラー・マフラーカバー・排気管・シリンダ及びシリンダヘッド等は運転中及び停止直後は触らないようにしてください。

非常に高温となりますので、火傷等のけがを負う恐れがあります。

803333008



エンジン及び燃料タンク・配管の付近で火気は使用しないでください。燃料は大変引火しやすく、火災などの発生により死亡又は重傷を負う危険性があります。

たばこやたきびなどの火気を近づけないでください。

給油中は必ずエンジンの回転を停止してください。

803333012



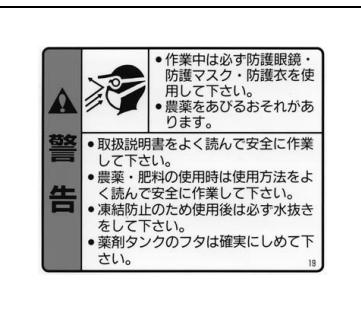
このラベルが貼り付けられているカバーの内部には回転部分があります。カバーを外したまま使用されると、巻き込まれて死亡または重傷を負う危険性があります。

803333014



ノズルから噴霧されています水（薬液）は高圧ですので、絶対に手や足で触れないでください。  
高圧の水流に触ると大けがをする恐れがあります。

803333019



農薬を使用する場合、作業中は必ず防護眼鏡・防護マスク・防護衣等を使用してください。  
農薬・肥料等の使用時はそれらの使用方法をよく読んで安全に作業してください。  
凍結防止のため、使用後は必ず水抜きをしてください。  
薬剤タンクのフタは確実に閉めてください。

803333021



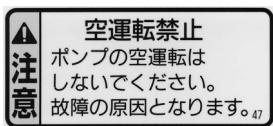
作業時、安全確保の為、まわりに人がいないことを確かめてから、操作をしてください。

803333023



このラベルが貼ってある付近に回転物があり、巻き込まれますと死亡又は重傷を負う危険性があります。

803333047



水（薬液）が入っていない状態でエンジンを始動しますとドウフンが空運転することになり、内部部品の損傷をまねく恐れがあります。

80333156



このラベルが貼ってある付近はエンジン運転中は高温になりますので、運転中及び停止直後は触らないようにしてください。

803333157



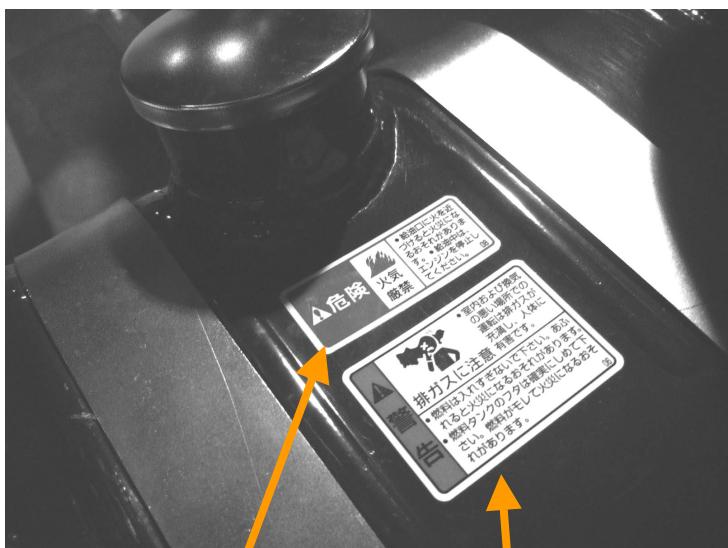
このラベルが貼ってある付近から排気ガスがでています。  
直接吸い込まないよう注意してください。

本製品では、安全に関するラベルを下記の位置に貼り付けています。



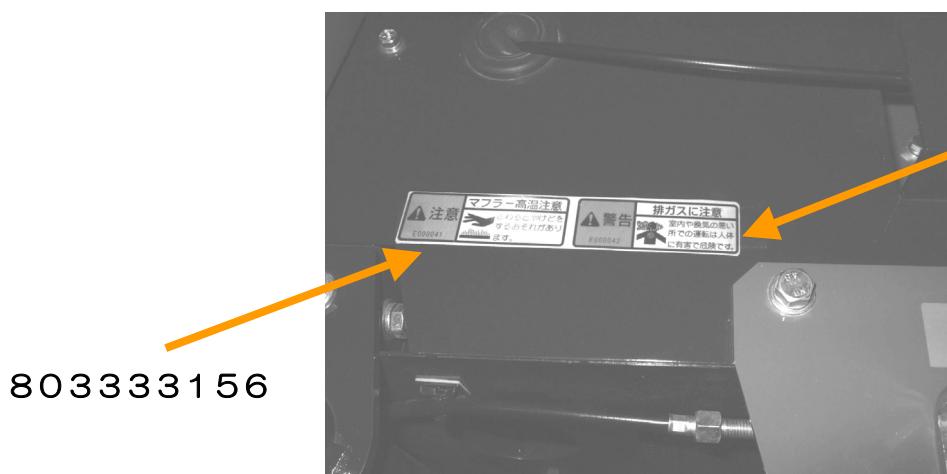
803333007

803333001



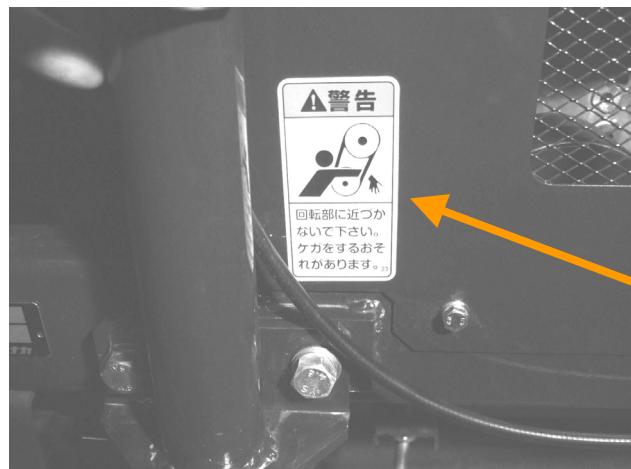
803333008

803333006

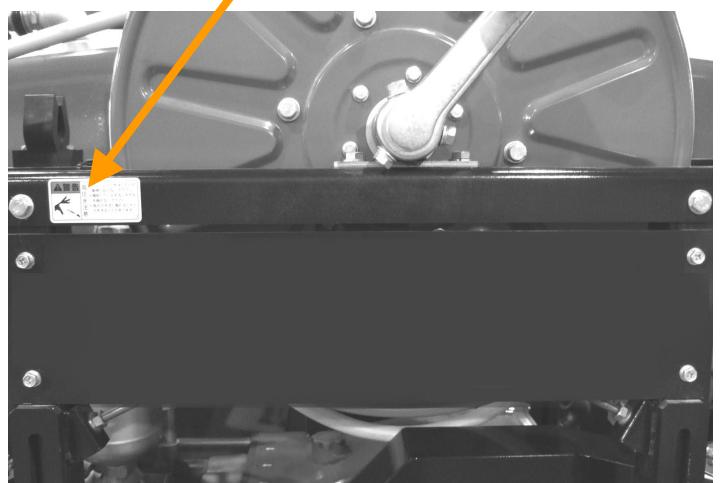
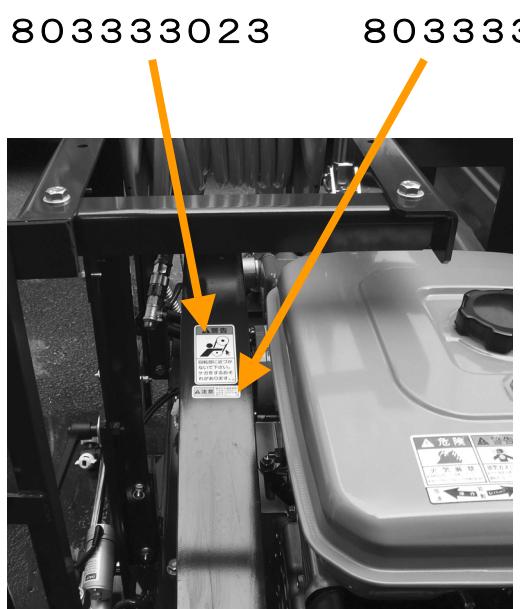
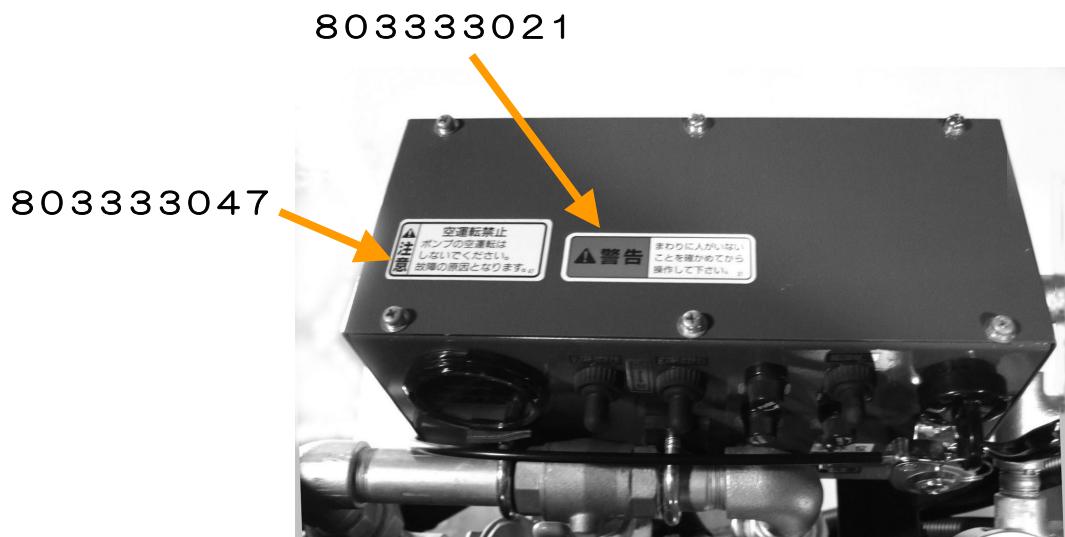


803333156

803333157



803333023



## 7. 運転準備

### 7-1. 車体について

次の手順に従って準備をおこなってください。

#### ○各部の点検・確認

- ①エンジンのオイル量をゲージで確認してください。

確認するには、シート部をハンドルに接触するまで、前方におこし、内側の三角形状のスタンドを90°以上起こします。これで、シート部の角度が保持できます。確認後、シート部をもどす場合は、まず、スタンドを初期の位置までもどし、シート部全体を、ゆっくりと後方に倒してください。

**▲注意** オイル量が不足している場合には、SAE 30相当品を補給してください。

- ②油圧オイルタンクのオイル量がレベルゲージの中央まであるか確認してください。

補給は、シート後方下、左側面付近の赤いキャップを外しておこないます。ゴミ等の異物を入れないようにしてください。

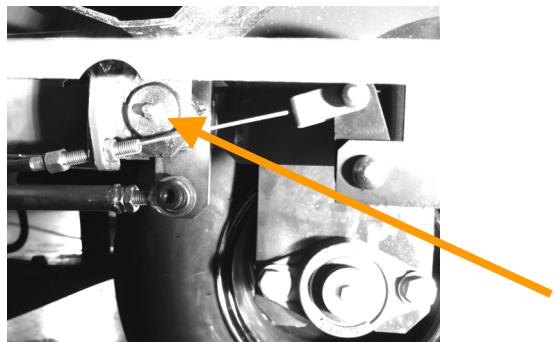
**▲注意** オイル量が不足している場合には、ISO 32相当品を補給してください。

- ③パーキングブレーキがかかっているか確認してください。

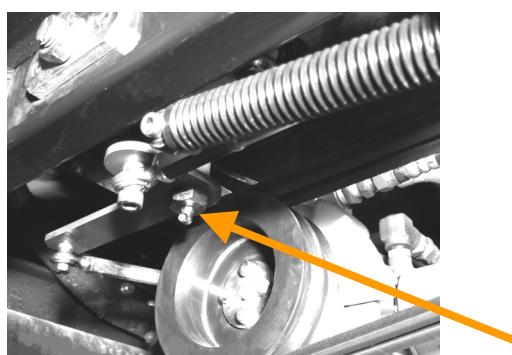
**▲注意** パーキングブレーキがかかっていない状態でエンジンを始動しますと、本機が動き出し、事故の原因となりますので注意してください。

#### ○グリスの供給

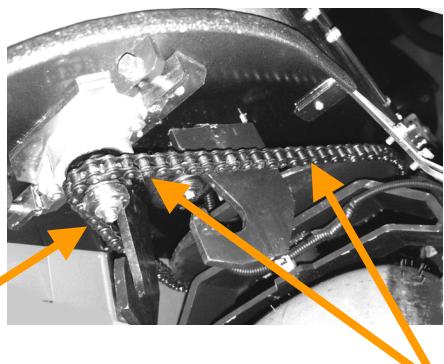
- ペダル右側面のグリスニップルにグリスを注入してください。



- 右後タイヤ前方のグリスニップルにグリスを注入してください。



- タイヤ（前輪）上部のチェーンにグリスを塗布してください。

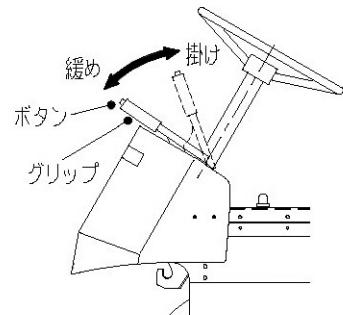


## ○シート位置の調整

- ・シートは作業者の体格に合わせるために、前後方向の調節が出来るようになっています。
- ・シート下のスライド用レバーを上方に向かって引くとシートは前後にスライドします。位置が決まりましたらスライド用レバーを戻して、固定してください。

## ○パーキングブレーキについて

- ・走行する時は、必ずパーキングブレーキを解除してください。  
パーキングブレーキを解除する時は、グリップ先端のボタンを指で押しながら前に倒してください。  
(ボタンを押さないと、グリップは戻せません)
- ・駐車時及び本機から離れる場合は、必ず、パーキングブレーキをかけてください。  
パーキングブレーキをかけるときは、ボタンに関係なく、グリップ部を握って手前に引くことにより、ブレーキがかかります。



### ▲警告

本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけてください。  
パーキングブレーキをかけないで放置されると、本機が動きだし、事故の原因となります。

## ○エンジンの始動

- ①本機を出来るだけ平らなところで停止してください。
- ②エンジンを始動します。始動の際は、決して、ペダルを踏まないようにしてください。始動方法はエンジンの取扱説明書を参照してください。
- ③しばらく暖機運転をおこなってください。（暖機不十分の場合、作業途中でエンジンが停止する場合があります。）

### ▲警告

エンジンは必ず換気の良い場所で始動してください。  
エンジンを始動する時は、本機の周囲半径5m以内に人を入れないでください。  
運転・停止方法を理解してから、走行・回送してください。  
作業者以外の人を便乗させないでください。

## 7-2. 噴霧作業について

### ○各部の点検・確認

- ①エンジンの燃料の残量を確認し、不足している場合はガソリンを給油してください。
- ②エンジンの取扱説明書に従ってエンジンのオイル量を確認し、不足している場合は補給してください。
- ③ドウフンの取扱説明書に従ってドウフンのオイル量を確認し、不足している場合は補給してください。

### ▲注意

◆エンジンとドウフンのオイル量は作業前に必ず確認してください。  
→オイル量が不足したままで作業を続けますと、エンジンやドウフンの故障の原因となる場合があります。

- ④ストレーナのフライナットを緩めてコシアミが目詰まりしていないか確認し、目詰まりしている時は掃除してください。

<b>▲注意</b>	<p>◆コシアミの目詰まりの有無は作業前に必ず確認してください。 →コシアミが目詰まりしたままで作業を続けますと、正常な噴霧ができなくなるほか、ドウフン等の故障の原因となる場合があります。</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ⑤コシアミを元に戻し、ストレーナのフライナットを確実に締めてください。
- ⑥コック（排水用）のハンドルが上方を向いている事を確認してください。このコックは、ハンドルを下方に回すとヤクザイタンク及びドウフン内の水(薬液)は全て排出され、ハンドルを上方に回すとヤクザイタンク内の水(薬液)はドウフンへ流れます。
- ⑦バルブ（止水用）が全開になっていることを確認してください。
- ⑧元コックのハンドルを本機後方に向けてください。このコックは、ハンドルが本機後方に向いている時に開いて送水し、ハンドルが上方に向いている時に閉じて送水を停止します。
- ⑨圧力調整コックのハンドルを上方に向けてください。このコックは、ハンドルが上方に向いているときは噴霧圧力が最高になり、ハンドルが本機後方に倒れるほど噴霧圧力が下がります。
- ⑩ドウフンのチョウアツベンレバーを減圧方向にし、圧力がかからないようにしておきます。
- ⑪3個のボールコックのハンドルをすべてキースイッチ(作業用)側にしてください。このコックは、ハンドルがキースイッチ側の時は閉、車体前輪側の時が開となります。
- ⑫スイッチ（左ブーム・右ブーム）を操作し、それぞれのブームアームが正常に開閉するか確認してください。

#### ○ヤクザイタンクへの給水

- ①スイッチ（攪拌用）が「停止」側になっていることを確認してください。
- ②ヤクザイタンクのフタをあけ、給水してください。

<b>▲注意</b>	<p>◆フタ内部にはコシアミが入っています、給水時はこのコシアミを付けた状態でおこなってください。 →コシアミを外して給水すると、大きなゴミや砂などの異物がドウフン等に入り、作動不良や故障の原因となる場合があります。</p>
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ②給水が終われば、ヤクザイタンクのフタをロック方向に回し、確実に閉めてください。

<b>▲注意</b>	<p>◆給水の後は、フタを確実に閉めてください。 →フタが確実に閉まっていないと、移動中や作業中に水(薬液)がこぼれることがあります。</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------

#### ○エンジンの始動

- ①本機を作業現場まで移動させ、作業に支障のない平らな場所で停止してください。
- ②再度、3個のボールコックがすべて閉じていることを確認してください。

<b>▲警告</b>	<p>◆3個のボールコックは、確実に閉じてください。 →ボールコックが開いたままエンジンを始動しますと、いきなりノズルから噴霧する場合がありますので危険です。</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

- ③ヤクザイタンクに水(薬液)が入っていることを確認してください。

<b>▲注意</b>	<p>◆運転時は必ずヤクザイタンクに水(薬液)を入れておいてください。 →ヤクザイタンクに水(薬液)がない状態でエンジンを始動しますとドウフンが空運転することになり、内部部品が損傷する場合があります。</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ④ドウフンのチョウアツベンレバーが減圧方向にあることを確認してください。
- ⑤エンジンを始動します。始動方法はエンジンの取扱説明書を参照してください。
- ⑥しばらく暖機運転をおこなってください。（暖機不十分の場合、作業途中でエンジンが停止する場合があります。）

## ○送水圧力の設定

- ①必要に応じてブームノズルを回転させ、使用するノズルを決めてください。
- ②スロットルレバーをいっぱいまで回し、エンジンの回転数を上げてください。
- ③本書巻末の作業性能資料を参考にして、使用するノズルに応じた送水圧力を設定してください。  
送水圧力の設定方法は、ドウフンの取扱説明書を参照してください。

### ▲注意

◆本機の設定圧力の上限は、1.5 MPaです。  
→1.5 MPa以上に設定すると、機器が損傷する場合があります。

- ④設定が終わりましたら元コックのハンドルを上方に向けてください。

## 8. 運 転

### 8-1. 車体走行について

#### ○走行について

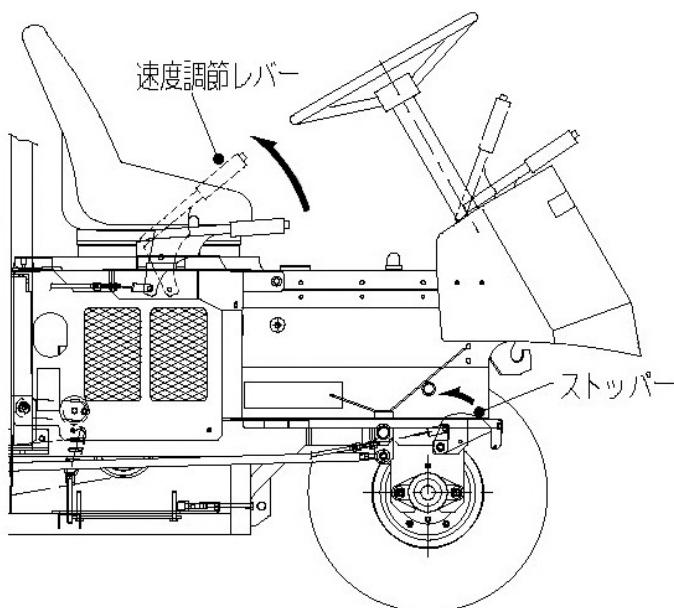
エンジンの回転数及びペダルの踏み込み量に比例して速度が変わりますので、状況に応じて速度設定してください。

ペダルは、前に踏み込むと前進、後ろに踏み込むと後退し、ペダルを中立位置に戻すことによってブレーキがかかります。

#### ○定速走行装置について

本機には安定した一定速走行を必要とする作業時のために、定速走行装置を装着しております。操作方法は、速度調節レバーによりペダルのストップバーの位置を調整し、ペダルの踏み込み量を規制することによって走行速度を定速に保持するものです。

一定速を必要とする作業が終了しましたときは速度調節レバーを戻して、定速走行装置を解除してください。



走行速度は、ハンドル部右側に装備しておりますソクドケイに表示されます。

尚、ソクドケイに表示される速度につきましては低速での精度向上のため、10倍速の表示となっておりますのでご注意ください。（例：20 Km/h メーター値 → 2 Km/h 実速度）

ソクドケイの取扱詳細につきましては、ソクドケイの取扱説明書を参照してください。

## 8-2. 噴霧作業について

### ○作業走行速度の決定

本書巻末の作業性能資料を参考にして、希望投入量から作業速度を決めてください。

但し、あくまで目安としての参考値ですので実作業の状況を見ながら適切に設定してください。

### ○噴霧作業

- ①作業場所に本機を移動します。
- ②3個のボールコックのうち、噴霧するブームアームのボールコックが開いていることを確認してください。使用しないブームアームのボールコックは閉じてください。
- ③スイッチ（左ブーム・右ブーム）により、必要なブームアームを開いてください。
- ④元コックを開いてください。これにより噴霧を開始します。
- ⑤確認した走行速度により走行してください。また、作業済みの範囲を確認しながら走行位置を調整し、作業領域に隙間が出来ないように注意しながら作業してください。

#### ▲注意

- ◆本機は前進方向でのみ作業し、後退方向での作業は行わないでください。  
→後退方向で作業をおこなった場合、芝を傷めたり部品の損傷をまねく場合があります。

⑥ブームを片側だけ使用する場合など、必要に応じて、圧力調整コックを操作し、噴霧圧力を調節してください。ハンドルが真上の状態が最高圧力で、ハンドルを本機後方に倒すにつれ噴霧圧力が低下します。

この圧力調整コックは、ヤクザイタンクへの戻り水量を調節するものですので、ブームノズルでの噴霧圧力をドウフンの送水圧力以上に設定することはできません。

⑦ヤクザイタンク内の水（薬液）が減少し、警告灯（低水位）が点灯すれば、元コックを閉じ、エンジン（作業用）を停止して、噴霧作業を中断してください。

⑧さらに噴霧作業を続ける場合は、前項「運転準備」に記載の手順でヤクザイタンクに給水してから、作業を再開してください。

#### ▲注意

- ◆ヤクザイタンクが空の時やヤクザイタンクへの給水時は、必ずエンジンを停止してください。  
→ヤクザイタンクが空の状態でエンジンを運転すると、ドウフンが空運転になり、内部部品を損傷する場合があります。

#### ▲注意

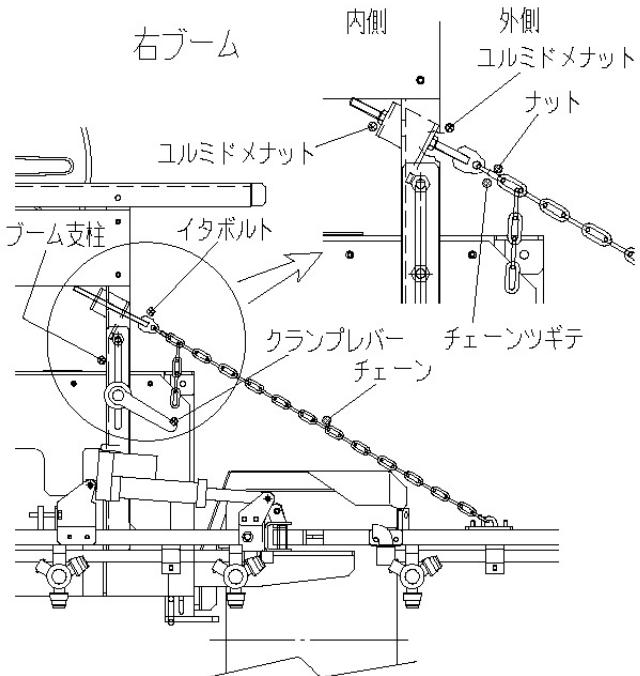
- ◆本機のドウフンは長時間の空運転が出来ません。  
→30秒以上の空運転を続けますと、内部部品を損傷する場合があります。

### ○ブームノズルの高さ調整

噴霧作業において、ブームノズル高さを変更させる場合、次の手順に従ってください。

- ①左右のブームアームを水平まで開いてください。
- ②イタボルトのネジ部にある内側のユルミドメナットを緩め、取り外してください。
- ③イタボルトのネジ部をブーム支柱より外してください。
- ④イタボルトのネジ部のユルミドメナット（外側）をチェーンツギテ側に移動させます。
- ⑤ブーム支柱にあるクランプレバーを緩め、水平高さに注意しながら、希望の高さに調整した後、しっかりと固定します。
- ⑥上方のチェーンツギテのナットを緩め、チェーンより外します。
- ⑦外したチェーンツギテを、チェーンの別のコマ位置に仮に入れます。
- ⑧イタボルトのネジ部を元のブーム支柱穴に戻し、ユルミドメナット（外、内）の締め込みが可能か確認します。
- ⑨できないようであれば、さらに、コマ位置を変更してください。
- ⑩チェーンツギテのナットを締めます。

- ⑪イタボルトのネジ部先端に、ユルミドメナットを組み付け、チェーンが無理なく直線になるまで締めます。
- ⑫イタボルト外側のユルミドメナットを当たり面まで締め込みます。
- ⑬ブームアームを開閉させ、作動を確認します。



#### ○ヤクザイタンク内の攪拌について

- ヤクザイタンク内に水（薬液）を入れ、警告灯（低水位）が点灯していない状態で、エンジンが運転中の時は、スイッチ（攪拌用）を「作動」側にすると、ヤクザイタンク内の水（薬液）を攪拌できます。
- 攪拌を終了する時は、スイッチ（攪拌用）を「停止」側にしてください。
- ヤクザイタンク内の水（薬液）が少なくなり、警告灯（低水位）が点灯すると、スイッチ（攪拌用）が「作動」側になっていても、攪拌は自動停止します。
- 攪拌が自動停止した場合は、すぐにスイッチ（攪拌用）を「停止」側にしてください。

<b>▲注意</b>	<p>◆走行作業中、水位が低下してくると警告灯（低水位）が点灯・消灯を繰り返す場合があります。この場合、連動してカクハンキも作動・停止を繰り返します。このような時は速やかにスイッチ（攪拌用）を「停止」側に切り換え、カクハンキを停止してください。</p> <p>→カクハンキが頻繁に作動・停止を繰り返し続けると、カクハンキの故障の原因となる場合があります。</p>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### ○作業途中におけるストレーナのコシアミの清掃について

- 噴霧作業途中など、ヤクザイタンク内に水（薬液）が入ったままでストレーナのコシアミの清掃が必要となった場合は、元コックを閉じ、エンジンを停止してから、バルブ（止水用）を閉じてコシアミを清掃してください。
- この時、ドウフンやホース内に残った水（薬液）がわずかに出ることがありますが、ヤクザイタンク内の水（薬液）が出ることはありません。
- コシアミの清掃方法は、作業終了後の清掃方法と同じです。
- 清掃の後は、必ずバルブ（止水用）を全開にしてください。

## 9. 作業終了

### 9-1. 車体走行について

○走行を終了する時は次の手順に従ってください。

- ①保管場所に移動してください。

- ②スロットルレバー(走行用)を手前にもどし、エンジン回転数を低速にしてください。
- ③パーキングブレーキをかけてください。
- ④キースイッチを「OFF」の位置にまわし、エンジン(走行用)を停止してください。

## 9-2. 噴霧作業停止について

- 噴霧作業を終了する時は次の手順に従ってください。
  - ①元コックを閉じて噴霧を終了してください。
  - ②3個のボールコックをすべて閉じてください。
  - ③スイッチ(左ブーム・右ブーム)を操作し、開いているブームを閉じてください。
  - ④スロットルレバー(作業用)を戻し、エンジン(作業用)を停止してください。

## 10. 清掃・保管

- 作業終了後は次の手順で手入れを行ってください。
  - ①作業に支障のない平らな場所に本機を移動してください。
  - ②ヤクザイタンク内に水または薬液が残った場合は、コック(排水用)のハンドルを下向きに切り換え、排水してください。

### ▲警告

- ◆薬液が顔や体にかかるないように注意してください。  
→薬液が体にかかると、健康に悪影響を及ぼす場合があります。

### ▲注意

- ◆薬液は河川や池等に流したりせず、適切な廃液処理をしてください。  
→不適切な処理を行うと、薬害を引き起こす場合があります。

- ③完全にヤクザイタンクから水(薬液)が抜けましたらコック(排水用)のハンドルを上向きにもどしてください。
- ④噴霧作業で薬液を使用した後は、少量の清水をヤクザイタンク内に補給し、適切な場所で実作業相当の作動を数分間行い、流路内部の洗浄を行ってください。残った水は、コック(排水用)のハンドルを下向きに切り換えて排水し、適切な廃液処理をしてください。

### ▲注意

- ◆薬液を使用した後は、流路内部の洗浄を行ってください。  
→薬液が残ったままにしておくと、機器の腐食やノズルの詰まりなど、故障やトラブルの原因となる場合があります。

- ⑤ストレーナのフライナットをゆるめて、内部のコシアミを清掃してください。

### ▲注意

- ◆コシアミの清掃時は、薬液に直接手で触れないようゴム手袋等を着用して作業してください。  
→薬液に触ると、健康に悪影響を及ぼす場合があります。

- ⑥コシアミの清掃後は、元通りコシアミを入れ、フライナットを締めてください。

### ▲注意

- ◆フライナットは確実に締めてください。  
→フライナットの締め込みが不足していると、ストレーナから液漏れが発生する場合があります。

### ▲注意

- ◆本機の水洗いは避けてください。  
→特にエンジンまわりやスイッチまわりには電気部品・配線が集中しており、水がかかった場合、作動不良の原因となる場合があります。

## ○保管

- ①保管場所に本機を移動してください。保管場所は火気のない場所で、高温や風雨にさらされず凍結のおそれのない屋内としてください。
- ②エンジンが停止していることを確認してください。
- ③ドウフンのチョウアツベンレバーを減圧方向にしてください。
- ④コック（排水用）のハンドルが上向きになっていることを確認してください。
- ⑤3個のボールコックが全て閉じていることを確認してください。
- ⑥ブームアームが閉じていることを確認してください。

## ○長期保管について

- 流路の洗浄及びコシアミ部の洗浄は作業後の手入れと同じです。
- 冬季保管中の流路内部凍結防止のため、ヤクザイタンクの水を抜いた状態で短時間（30秒以内）実作業状態で運転し、水抜きを行います。

### ▲注意

◆水抜きのための空運転時間は30秒以内としてください。  
→30秒以上の空運転を続けますと、内部部品を損傷する場合があります。

### ▲注意

◆空運転直後にヤクザイタンクに水を入れ、すぐにエンジンを再始動することは避けてください。空運転の際、ドウフンを水（薬液）なしで動かすことにより、ドウフンが高温になっています。ドウフン内部部品が常温になるまで再始動しないでください。  
→ドウフンが高温のままで再始動すると、高温の内部部品に水が触れて急激に冷却され、これらの部品が損傷する場合があります。

- エンジンの取扱説明書に従って、エンジンの燃料を抜いてください。
- ボルト・ネジ類にゆるみがないか確認してください。
- 配管にゆるみ・破損がないか確認してください。
- 安全ラベルが正しく貼り付けられているか確認してください。
- 取扱説明書がそろっているか確認してください。また取扱説明書は、本機に近接して保管してください。

## 11. 点検・整備

- 本機の寿命を長く保つために常に手入れを行ってください。
- 掃除、点検、清掃、整備は平坦な場所に本機を置いて、エンジンを停止し、各部の回転が止まってから行ってください。また、運転直後、エンジンが高温の場合は、充分に冷えてから行ってください。
- 取り外したカバー類は点検・整備等が終了した後、必ず取り付けてください。
- 始業時に必ず次の項目について点検してください。
  - ・ボルト、ネジ部の弛みはないか。
  - ・ホース類の破損はないか。
  - ・エンジン、油圧ミッション、油圧タンク、ドウフンのオイル量及び汚れ。
  - ・配管の弛みはないか。
  - ・各部からの水（薬液）漏れはないか。
  - ・各部からのオイル漏れはないか。
- エンジン、ドウフンについてはそれぞれの取扱説明書を参照してください。
- エンジン、ドウフンのオイルを交換する際、各々のドレンプラグをはずし、排油してください。ドレン口は、エンジン(走行用)は左ステップの下方に、エンジン(噴霧作業用)、ドウフンは右後タイヤの後方にあります。
- ブイベルトのサイズは下記のものを使用しています。  
交換時には同サイズのものを御使用ください
  - ・エンジン～走行用油圧ミッション ----- SB 61
  - ・エンジン～ドウフン ----- A 51

○バッテリーのサイズは下記のものを使用しています。交換時には同サイズ同性能のものを御使用ください。

JIS規格 40B19R

## 12. 故障と対策

この「故障と対策」はご使用中に「故障かな?」と思われたときの原因と対策をまとめてあります。ここで記載しております対策を行っても状況が改善されない場合は、むやみに分解せずにお買い上げの販売店またはもよりの当社営業所までお申し付けください。

その時に、

1. 型式名
  2. 製造番号
  3. 故障内容（何が、どのような状態で、どうしたら、どうなったか）
- について詳しくお伝えください。

◎の項目については、必ずお買い上げいただいた販売店またはもよりの当社営業所に調整、修理を依頼してください。

エンジン、ドウフンについてはそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

症 状	原 因	対 策
エンジンがかからない	<ul style="list-style-type: none"><li>• 燃料がない</li><li>• その他</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 燃料を補給してください。</li><li>• エンジンの取扱説明書をお読みください。</li></ul>
セルモータがまわらない	<ul style="list-style-type: none"><li>• バッテリー上がり</li><li>• ターミナルの接触不良</li><li>• その他</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• バッテリーを充電もしくは交換してください。</li><li>• ターミナルを確実に接続してください。</li><li>• エンジンの取扱説明書をお読みください。</li></ul>
本機が動かない	<ul style="list-style-type: none"><li>• パーキングブレーキの戻し不良</li><li>• 油量不足により油圧が上がらない</li><li>• その他</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• パーキングブレーキを確実に戻してください。</li><li>• 油圧オイルタンクに油圧作動油を追加してください。</li></ul> <p>◎お買い上げいただいた販売店またはもよりの当社営業所にお問い合わせください。</p>
ブームアームが開閉出来ない	<ul style="list-style-type: none"><li>• ヒューズ(5A)の溶断</li><li>• 障害物の存在</li><li>• その他</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• ヒューズ(5A)を交換してください。</li><li>• 障害物を取り除いてください。</li></ul> <p>◎お買い上げいただいた販売店またはもよりの当社営業所にお問い合わせください。</p>
ノズルから水が出ない	<ul style="list-style-type: none"><li>• 圧力調整コックが開いている</li><li>• その他のコックやバルブが閉じている</li><li>• ストレーナのコシアミの目詰まり</li><li>• ドウフンの作動不良</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 必要な圧力まで圧力調整コックを閉じてください。</li><li>• コックやバルブを開いてください。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>• ストレーナのコシアミを清水で洗浄してください。</li><li>• ドウフンの取扱説明書をお読みください。</li></ul>
ヤクザイタンクのカクハンキが動作しない	<ul style="list-style-type: none"><li>• 水(薬液)が入っていない</li><li>• ヒューズ(15A)の溶断</li><li>• 低水位センサの不良</li><li>• 作動リレーの不良</li><li>• カクハンキの不良</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 水(薬液)を入れてください。</li><li>• ヒューズ(15A)を交換してください。</li></ul> <p>◎低水位センサを交換してください。</p> <p>◎リレーを交換してください。</p> <p>◎カクハンキを交換してください。</p>

アワーメータの表示値が進まない	・コードの接続不良 ・アワーメータの不良	・接続確認をしてください。 ◎アワーメータを交換してください。
配管からの水漏れ	・接続金具のゆるみ ・ホースの破損	・接続金具を増し締めしてください。 ・ホースを交換してください。

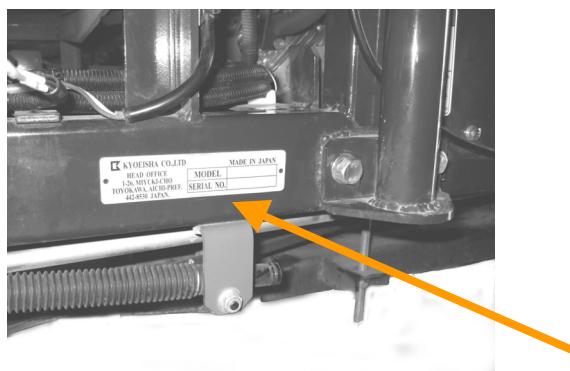
### 13. アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置をしてもなお不具合のあるときには、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店又は当社までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- ご使用状況
- どの位ご使用されたか→何時間位
- 不具合が発生した状況をできるだけ詳しくお教えください

尚、本機の型式名と製造番号は、ヤクザイタンク下方のホンキフレーム右側面(下図参照)に記載しております。



本機の型式名と製造番号

### 14. 補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。

但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 15. 作業性能資料

以下に、各ノズルに於ける薬液投入量に対する作業速度の目安を示します。

あくまで参考値ですので、実作業の状況を見ながら適切な値を見いだしてください。

### ☆ノズル80-08 圧力0.5MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	—	43	11-40	5000
0.15	48	43	11-40	3333
0.20	36	43	11-40	2500
0.25	29	43	11-40	2000
0.30	24	43	11-40	1667
0.35	20	43	11-40	1429
0.40	18	43	11-40	1250
0.45	16	43	11-40	1111
0.50	14	43	11-40	1000
0.55	13	43	11-40	909
0.60	12	43	11-40	833
0.65	11	43	11-40	769
0.70	10	43	11-40	714
0.75	10	43	11-40	667
0.80	9	43	11-40	625
0.85	8	43	11-40	588
0.90	8	43	11-40	556
0.95	8	43	11-40	526
1.00	7	43	11-40	500

### ☆ノズル80-08 圧力1.0MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	—	61	8-10	5000
0.15	—	61	8-10	3333
0.20	51	61	8-10	2500
0.25	41	61	8-10	2000
0.30	34	61	8-10	1667
0.35	29	61	8-10	1429
0.40	25	61	8-10	1250
0.45	23	61	8-10	1111
0.50	20	61	8-10	1000
0.55	18	61	8-10	909
0.60	17	61	8-10	833
0.65	16	61	8-10	769
0.70	15	61	8-10	714
0.75	14	61	8-10	667
0.80	13	61	8-10	625
0.85	12	61	8-10	588
0.90	11	61	8-10	556
0.95	11	61	8-10	526
1.00	10	61	8-10	500

☆ノズル80-08 圧力1.5MPa

投入量 (L/m <sup>3</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	—	74	6-45	5000
0.15	—	74	6-45	3333
0.20	62	74	6-45	2500
0.25	49	74	6-45	2000
0.30	41	74	6-45	1667
0.35	35	74	6-45	1429
0.40	31	74	6-45	1250
0.45	27	74	6-45	1111
0.50	25	74	6-45	1000
0.55	22	74	6-45	909
0.60	21	74	6-45	833
0.65	19	74	6-45	769
0.70	18	74	6-45	714
0.75	16	74	6-45	667
0.80	15	74	6-45	625
0.85	15	74	6-45	588
0.90	14	74	6-45	556
0.95	13	74	6-45	526
1.00	12	74	6-45	500

☆ノズル80-10 圧力0.5MPa

投入量 (L/m <sup>3</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	—	53	9-25	5000
0.15	59	53	9-25	3333
0.20	44	53	9-25	2500
0.25	35	53	9-25	2000
0.30	29	53	9-25	1667
0.35	25	53	9-25	1429
0.40	22	53	9-25	1250
0.45	20	53	9-25	1111
0.50	18	53	9-25	1000
0.55	16	53	9-25	909
0.60	15	53	9-25	833
0.65	14	53	9-25	769
0.70	13	53	9-25	714
0.75	12	53	9-25	667
0.80	11	53	9-25	625
0.85	10	53	9-25	588
0.90	10	53	9-25	556
0.95	9	53	9-25	526
1.00	9	53	9-25	500

☆ノズル80-10 圧力1.0MPa

投入量 (L/m <sup>3</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	—	75	6-40	5000
0.15	—	75	6-40	3333
0.20	63	75	6-40	2500
0.25	50	75	6-40	2000
0.30	42	75	6-40	1667
0.35	36	75	6-40	1429
0.40	31	75	6-40	1250
0.45	28	75	6-40	1111
0.50	25	75	6-40	1000
0.55	23	75	6-40	909
0.60	21	75	6-40	833
0.65	19	75	6-40	769
0.70	18	75	6-40	714
0.75	17	75	6-40	667
0.80	16	75	6-40	625
0.85	15	75	6-40	588
0.90	14	75	6-40	556
0.95	13	75	6-40	526
1.00	13	75	6-40	500

☆ノズル80-15 圧力0.5MPa

投入量 (L/m <sup>3</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	—	81	6-10	5000
0.15	—	81	6-10	3333
0.20	68	81	6-10	2500
0.25	54	81	6-10	2000
0.30	45	81	6-10	1667
0.35	39	81	6-10	1429
0.40	34	81	6-10	1250
0.45	30	81	6-10	1111
0.50	27	81	6-10	1000
0.55	25	81	6-10	909
0.60	23	81	6-10	833
0.65	21	81	6-10	769
0.70	19	81	6-10	714
0.75	18	81	6-10	667
0.80	17	81	6-10	625
0.85	16	81	6-10	588
0.90	15	81	6-10	556
0.95	14	81	6-10	526
1.00	14	81	6-10	500

☆ノズル110-03 圧力0.2MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.01	—	10	50-00	50000
0.02	—	10	50-00	25000
0.03	56	10	50-00	16667
0.04	42	10	50-00	12500
0.05	33	10	50-00	10000
0.06	28	10	50-00	8333
0.07	24	10	50-00	7143
0.08	21	10	50-00	6250
0.09	19	10	50-00	5556
0.10	17	10	50-00	5000
0.15	11	10	50-00	3333
0.20	8	10	50-00	2500
0.25	7	10	50-00	2000
0.30	6	10	50-00	1667
0.35	5	10	50-00	1429
0.40	4	10	50-00	1250
0.50	3	10	50-00	1000

☆ノズル110-03 圧力0.3MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.01	—	12.7	39-20	50000
0.02	—	12.7	39-20	25000
0.03	71	12.7	39-20	16667
0.04	53	12.7	39-20	12500
0.05	42	12.7	39-20	10000
0.06	35	12.7	39-20	8333
0.07	30	12.7	39-20	7143
0.08	26	12.7	39-20	6250
0.09	24	12.7	39-20	5556
0.10	21	12.7	39-20	5000
0.15	14	12.7	39-20	3333
0.20	11	12.7	39-20	2500
0.25	8	12.7	39-20	2000
0.30	7	12.7	39-20	1667
0.35	6	12.7	39-20	1429
0.40	5	12.7	39-20	1250
0.50	4	12.7	39-20	1000

☆ノズル110-04 圧力0.2MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.01	—	13.7	36-30	50000
0.02	—	13.7	36-30	25000
0.03	76	13.7	36-30	16667
0.04	57	13.7	36-30	12500
0.05	46	13.7	36-30	10000
0.06	38	13.7	36-30	8333
0.07	33	13.7	36-30	7143
0.08	29	13.7	36-30	6250
0.09	25	13.7	36-30	5556
0.10	23	13.7	36-30	5000
0.15	15	13.7	36-30	3333
0.20	11	13.7	36-30	2500
0.25	9	13.7	36-30	2000
0.30	8	13.7	36-30	1667
0.35	7	13.7	36-30	1429
0.40	6	13.7	36-30	1250
0.50	5	13.7	36-30	1000

☆ノズル110-04 圧力0.3MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.01	—	16.8	29-45	50000
0.02	—	16.8	29-45	25000
0.03	—	16.8	29-45	16667
0.04	70	16.8	29-45	12500
0.05	56	16.8	29-45	10000
0.06	47	16.8	29-45	8333
0.07	40	16.8	29-45	7143
0.08	35	16.8	29-45	6250
0.09	31	16.8	29-45	5556
0.10	28	16.8	29-45	5000
0.15	19	16.8	29-45	3333
0.20	14	16.8	29-45	2500
0.25	11	16.8	29-45	2000
0.30	9	16.8	29-45	1667
0.35	8	16.8	29-45	1429
0.40	7	16.8	29-45	1250
0.50	6	16.8	29-45	1000

☆ノズル110-05 圧力0.2MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.01	—	16.8	29-45	50000
0.02	—	16.8	29-45	25000
0.03	—	16.8	29-45	16667
0.04	70	16.8	29-45	12500
0.05	56	16.8	29-45	10000
0.06	47	16.8	29-45	8333
0.07	40	16.8	29-45	7143
0.08	35	16.8	29-45	6250
0.09	31	16.8	29-45	5556
0.10	28	16.8	29-45	5000
0.15	19	16.8	29-45	3333
0.20	14	16.8	29-45	2500
0.25	11	16.8	29-45	2000
0.30	9	16.8	29-45	1667
0.35	8	16.8	29-45	1429
0.40	7	16.8	29-45	1250
0.50	6	16.8	29-45	1000

☆ノズル110-05 圧力0.3MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.01	—	21.2	23-35	50000
0.02	—	21.2	23-35	25000
0.03	—	21.2	23-35	16667
0.04	—	21.2	23-35	12500
0.05	71	21.2	23-35	10000
0.06	59	21.2	23-35	8333
0.07	50	21.2	23-35	7143
0.08	44	21.2	23-35	6250
0.09	39	21.2	23-35	5556
0.10	35	21.2	23-35	5000
0.15	24	21.2	23-35	3333
0.20	18	21.2	23-35	2500
0.25	14	21.2	23-35	2000
0.30	12	21.2	23-35	1667
0.35	10	21.2	23-35	1429
0.40	9	21.2	23-35	1250
0.50	7	21.2	23-35	1000

☆ノズル80-06 圧力0.5MPa

投入量 (L/m <sup>3</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	60	36	13-50	5000
0.15	40	36	13-50	3333
0.20	30	36	13-50	2500
0.25	24	36	13-50	2000
0.30	20	36	13-50	1667
0.35	17	36	13-50	1429
0.40	15	36	13-50	1250
0.45	13	36	13-50	1111
0.50	12	36	13-50	1000
0.55	11	36	13-50	909
0.60	10	36	13-50	833
0.65	9	36	13-50	769
0.70	9	36	13-50	714
0.75	8	36	13-50	667
0.80	8	36	13-50	625
0.85	7	36	13-50	588
0.90	7	36	13-50	556
0.95	6	36	13-50	526
1.00	6	36	13-50	500

☆ノズル80-06 圧力1.0MPa

投入量 (L/m <sup>3</sup> )	作業速度 (x-タ表示)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	87	52	9-40	5000
0.15	58	52	9-40	3333
0.20	43	52	9-40	2500
0.25	35	52	9-40	2000
0.30	29	52	9-40	1667
0.35	25	52	9-40	1429
0.40	22	52	9-40	1250
0.45	19	52	9-40	1111
0.50	17	52	9-40	1000
0.55	16	52	9-40	909
0.60	14	52	9-40	833
0.65	13	52	9-40	769
0.70	12	52	9-40	714
0.75	12	52	9-40	667
0.80	11	52	9-40	625
0.85	10	52	9-40	588
0.90	10	52	9-40	556
0.95	9	52	9-40	526
1.00	9	52	9-40	500

☆ノズル80-06 圧力1.5MPa

投入量 (L/m <sup>2</sup> )	作業速度 (m <sup>2</sup> /分)	噴霧量 (L/min)	作業時間 (分-秒)	作業面積 (m <sup>2</sup> /500L)
0.10	—	64	7-50	5000
0.15	71	64	7-50	3333
0.20	53	64	7-50	2500
0.25	43	64	7-50	2000
0.30	36	64	7-50	1667
0.35	30	64	7-50	1429
0.40	27	64	7-50	1250
0.45	24	64	7-50	1111
0.50	21	64	7-50	1000
0.55	19	64	7-50	909
0.60	18	64	7-50	833
0.65	16	64	7-50	769
0.70	15	64	7-50	714
0.75	14	64	7-50	667
0.80	13	64	7-50	625
0.85	13	64	7-50	588
0.90	12	64	7-50	556
0.95	11	64	7-50	526
1.00	11	64	7-50	500

**BARONESS**<sup>®</sup>  
Q u a l i t y   o n   D e m a n d



株 式 会 社 共 栄 社  
〒442-8530  
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84 - 1221  
FAX (0533) 84 - 1220